

らなる“教育のためのプラネタリウム—設置についての基本的な考え方—”という本を研究会で製作した(1冊実費500円で販布)。観望会WGは観望会に必要な知識、準備、実行例などをまとめて、恒星社厚生閣から178頁からなる天体観望ガイドブック“宇宙を見せて”を出版した(1冊定価2678円)。

1991年秋の日本天文学会秋季年会から各年度の折に当研究会と日本天文学会の共催するフォーラムを開催している。それぞれの会での論議は活発に行われているが、1992年春、1992年秋のフォーラムの内容をまとめたものが75頁からなる“天文教具”(1冊実費300円で販布)と20頁からなる“宇宙を学べる大学はこんなにある”(1冊実費100円で販布)として当研究会で製作した。

このように実体のある成果となってきたものもあるが、学校における指導要領の問題や天文データの一般へのスムーズな提供方法、最近増えてきた公共天文台への在り方、光害問題などまだまだ議論を積み重ねて、共同の目標を見いだし、協力してその方向に進むためにかかなりの努力が必要なテーマが存在することもはっきりしてきた。

当研究会では今年度より整備された新会則が発行した。これまでのように数人の世話人が会の日常活動をお世話するのではなく、会長、副会長、地区運営委員、分野運営委員がそれぞれのテーマに責任を持って議論を盛り上げる体制へと移ろうとしている。さらに、会誌の編集委員会も設立され、より充実した情報交換、意見交換の場も作られてつつある。

今回の研究会には日本天文学会員の研究者に何人も参加してもらった。日本天文学会員の中にも天文教育に関心を持つ人が徐々に増えてきたことは幸いなことである。多方面の議論を通して、より良い協力関係を保っていききたいと思う。

なお、本年度の第7回天文教育会集録(一冊実費2000円で販布)を含め、当会が製作した冊子を希望の方は、自身の住所氏名を記入し240円切手を貼った封筒を同封し、所定の費用分の60円前後の切手を同封して、希望の本の題名を記して、当研究会(〒181東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内天文教育普及研究会)に申し込んでほしい。

磯部瑠三(国立天文台)

月報だより

日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

選挙管理委員会は、1994年の総会に推薦される改選評議員(任期1994年~1998年)候補者の選挙について、定款第19条及び評議員選挙施行細則(以下細則という)の規定に基づき、下記の通り公示する。

記

1. 選挙権及び被選挙権を有するものは、この公示の時点における特別会員である。ただし被選挙権については非改選評議員(任期1992年~1996年)であるものを除く(細則第3条による)。
2. 上記有権者には、有権者名簿及び投票用紙を別に発送する(細則第4条による)。
3. 投票は、10名以内の無記名連記とする(細則第5条による)。
4. 投票期間は、1993年12月3日から1994年1月10

日(必着)までとする。

5. 選出された候補者の名簿は、1994年4月20日発行の天文月報(1994年5月号)にこれを発表する(細則第7条による)。
6. 投票の細則に関しては、上記2の投票用紙の発送に際して、これを通知する。
以上
1993年11月20日

評議員選挙・有権者の名簿について

日本天文学会では、評議員選挙における有権者名簿の作製にあたり、名簿の訂正を前回通り秋季年会会場での名簿提示および選挙管理委員による校正で行いました。しかし、名簿の訂正をより確かにするため、天文学会へ所属変更の手続きをされていない方は速やかに当学会へご連絡下さるようお願いいたします。

注意：投票用紙の発送は、1993年11月20日現在の会員原簿の住所によりますから、その後変更等のある方

は必ず1993年12月1日までに申し出て下さい。

日本学術会議第16期会員候補者選考に関する公示

日本天文学会選挙管理委員会は、1994年7月に改選される表記の会員候補者（第4部・天文学）の選挙を行います。

この選挙は、日本天文学会・日本学術会議会員候補者推薦内規（以下内規という）の規定に基づいて行うもので、下記の通り公示する。

記

1. 選挙権を有するものは、1993年11月20日における特別会員である。（内規第4条、内規注）
2. 被選挙権者は、日本学術会議法により、①日本国籍を有するもの。②会員在任任期が通算9年未満のものである。（内規第5条）。
3. 上記有権者には、12月初旬に有権者名簿、投票用紙および投票用封筒を送付する。
4. 投票期間は、1993年12月3日～1994年1月10日とする。
5. 投票は単記・無記名とする。（内規第7条）
6. 選出された候補者名は、1994年4月20日発行の天文月報5月号に発表する。
7. 投票の詳細については、投票用紙の発送に際してこれを通知する。以上
1993年11月20日

日本天文学会選挙管理委員会

注意：なお、内規第3条にある選挙管理人は、理事長により評議員選挙管理委員会委員長が指名されました。今期は、評議員選挙と日本学術会議会員選挙が重なるため、二つの選挙は、評議員選挙管理委員会によって同時選挙で行う事としました。

日本天文学会 1993年秋季年会記事

1993年秋季年会は10月13日（水）～15日（金）の3日間、鹿児島大学教育学部・第一講義棟の4会場を使って開催した。口頭発表による講演数は、A会場：77、B会場：76、C会場：75、D会場：77の合計305であった。各会場の座長は次の方々をお願いした。

ポスターによる発表は32件で、Post-deadline Papersはなかった。このセッションについては、10月15日13時から45分間ディスカッションの時間帯を設けた。

◎記者会見

秋季年会前日の18時から、第一講義棟(101)号室で記者会見を行い、主に次の5点について解説をした。

司会・進行は、渡邊庶務理事・内田理事長が行った。

会場	午前	午後	
13日	A 戎崎 俊一	祖父江義明	谷口 義明
	B 中村 卓史	荒井 賢三	長谷川哲夫
	C 吉田 春夫	福島登志夫	小倉 勝男
	D 柴田 一成	小杉 健郎	桜井 隆
14日	A 羽部 朝男	総 会	エクスカーション
	B 松本 敏雄		
	C 牧島 一夫		
	D 稲谷 順司		
15日	A 井上 一	有本 信雄	
	B 川辺 良平	ホスター 中野 武宣	
	C 伊藤 直樹	デニス 加藤万里子	
	D 芝井 広	カッショウ 家 正則	

話 題：I) 天文学会秋季年会(10月13～15日、鹿児島大学) トピックス

- 1) 科学衛星「あすか」によるX線天文学
井上 一(宇宙科学研究所)《関連講演；B 035, C 035》
- 2) 日本列島VLBIネットワーク
森本雅樹、面高敏宏(鹿児島大学)《関連講演；D 036, 041》
- 3) DM Tauのまわりの原始惑星系円盤の発見
半田利弘(東大理)、面高敏宏、北村良実(鹿児島大学)
《関連講演；B 057～059》

II) 公開講演会(10月16日午後2時～、れいめい館)

- 1) 「あすか」が開く新しいX線天文学
井上 一(宇宙科学研究所)
- 2) 薩摩と天文学
森本雅樹(鹿児島大学教養部)

当日の出席報道機関は7社であった

また会期中に、内地留学奨学金選考委員会、評議員会理事会が開かれ、10月14日(木)13時30分から「天文学会会費の値上げに関する件」で臨時総会が開催された。

◎臨時総会

総会は、春季通常総会の集約意見を踏まえた「学会財政の立て直し」についての提案から始まった。

具体的には、会費・PASJの掲載料・別刷代の値上げ、年会の登壇料等を含む案件に対して様々が意見が出され、2時間に亘って活潑な討論が行われた。結果的には理事会提案(月報9月号P.403の内容および、学会会費、年会参加費、予稿集講演登壇料の予約)が大方諒承されたが、年会時の学生負担額の軽減を念頭に置いてさらに

検討することとなった。総会出席者は、96名であった。

◎ 懇親会

2日目・18時より鹿児島大学生協中央食堂で懇親会が行われた。参加者は230名を超える盛況で、年会参加者の2/3が出席すると云う近來にない参加率であった。会場には、中央に3つの郷土料理テーブルが仕つらえてあり、すしコーナー、そばコーナーおよび焼酎コーナー（星に関する銘柄89本）は盛観であった。理事長・県知事の挨拶に続き、海野・古在両氏を加えた4名の鏡割りから始まった懇親会は、森本氏の司会も相俟って天文学会では従来見られなかった賑々しき宴であった。

なお、この懇親会には毎度ながら五島プラネタリウム様、(株)エイ・イー・エス様よりご寄付をいただき大変感謝しております。

◎ エクスカーション

何年かぶりで復活したエクスカーションは、鹿児島大学面高理事のお骨折りで、2つの企画が実行された。

1) 6m望遠鏡エクスカーション

会期・中日に催されたこのエクスカーションは、新装なり南国で立ち上がった6m電波望遠鏡の見学となった。雄大な桜島とNIIロケットが見おろす錦江湾公園の一角に設置された望遠鏡は、早速W49を追尾して見せた。大型バスに乗り切れない程の会員(90名)が参加したエクスカーションは、それに引続き行われた参加費激安還元・星の名のつく焼酎多種多様の懇親会とともに、「鹿児島大学で開催された秋季年会」を永遠に心に刻ませたことだろう。

2) 種ヶ島エクスカーション

種ヶ島宇宙センターへの視察と云う形で、鹿児島県から補助金をいただいたこのツアーは、年会終了後の10月16日(土)、天候に恵まれ予定通り実施された。参加者は44名であった。このツアーには、面高理事は勿論のこと鹿児島県観光課の馬場さんも終始行動を共にしていただき、楽しい一日を過ごさせていただいた。土曜日の休日にも抱わず私共のために出勤された県観光課の方々および宇宙センターの方々に御礼申し上げます。

◎ 公開講演会

秋季年会閉会の翌10月18日、鹿児島県立黎明館講堂で開催された。講演会は、鹿児島県新技術情報科の中山隆幸課長補佐の司会で行われたが、定刻には会場は満席になるという状態であった。

講演は、井上 一氏の映画を使ったX線天文衛星「あすか」の紹介から始まった。「あすか」が鹿児島県の内之浦から打ち上げられたこともあって、聴衆の反応は良かった。2番手は森本雅樹氏で、いつもの手慣れた話術で鹿児島と宇宙についての関わり、電波天文学の面白さを楽しく話された。2講演の終わりに質問時間がとられた

が、お二人の話しが面白かったのか、会場から、ひっきりなしに質問が出され、鹿児島県の役人さんもほくほく顔であった。

なお、この講演会は、日本天文学会・鹿児島県の共催で行われたものである。

最後に、この秋季年会を開催するに当り多大のご協力をいただいた鹿児島大学教育学部および教養部のスタッフの方々、お手伝いに積極的に参加していただいた他学部の方々またアルバイトの学生諸氏さらに年会参加者のためにご便宜を計っていただいた鹿大生協の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

特に今回の年会開催に際して、懇親会、エクスカーションへのご支援、公開講演会に於ける講演者への謝金、宿泊費等多岐に亘るご援助をいただいた鹿児島県そして県知事始め多くの県職員の方々に深く感謝いたします。

会費の自動引落としについて

天文学会会費の銀行自動引落とし事務の見通しがつきましたのでお知らせします。このことは、既に9月号・月報だより(P.402)に予報しましたように、天文学会会費の納入遅れを解消し学会運営を少しでも円滑にするための方策として採用したものです。この方式は会員の皆様にとっても、会費納入のために銀行や郵便局へ足を運ばなくてよいなどのメリットがあります。また会費納入と同時に予約できる春・秋の年会参加費、予稿集の価格割引が受けられることも魅力の一つではなからうかと思えます。なお、1件あたり120円の手数料は学会が負担いたします。

自動引落としに申し込める支払い項目は次の通りです。(ただし、金額については来年1月に確定されます。)

天文学会会費	特別会員	18,000円	
	〃 (学生)	14,000円	
	通常会員	8,000円	
年会参加費(円)	予約		予約なし
	一般会員	3,000	3,500
	学生会員	1,500	1,800
	その他	4,000	5,000
予稿集	1,800(送料込み)	2,000(送料別)	
講演登録料			
	特別会員	0	0
	通常会員	3,000	4,000
	その他	5,000	6,000

念のため付け加えますが、1994年度から特別会員への年会予稿集の無料配布はしないことになりました。(月報9月号P.403, 12月号(臨時総会)従って特別会員でも必要な方は、その都度ご購入いただくこととなります。こ

れの送付にはお申し込み毎にそれぞれ対応しなければならないので、事務的には大変な負担になります。特に春季年会時には、年度決算を始め年度末決済の業務が集中する時期でもありますので、是非一括処理ができる予約制度＝自動引落をご利用になるようお願い申し上げます。《それ以外のご送金に対しては、予約期間内にお申し込みになっても割引には応じられません。》

◎天文学会会費の自動引落しには登録が必要になりますが、その登録用紙は天文学会に用意してありますので、会員番号・氏名をお知らせいただければ折り返し刊行物送付先宛にお送りします。必要個所に記入、捺印のうえ、天文学会宛にご返送下さい。

◎年会参加費・予稿集・登壇料等年会に関する予約は、春・秋の年会申込締切日までにご連絡いただくこととなりますが具体的には月報2月号でお知らせいたします。

◎事務室からのお願い

自動引落しについての取扱いは未経験のため、不測の事態でまごつくことがあるかも知れませんが、その節はよろしくご協力の程をお願いします。

(以上)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

国立天文台研究員公募

1. 4名（うち電波天文学分野2名）
2. (2)国立天文台（電波天文学分野については原則として野辺山）
3. 天文学及び関連分野
5. (1)平成6年4月以降でなるべく早い時期
(2)原則として2年（1年に限り延長を認めることがあります）
6. 大学院修士課程修了者またはそれと同等以上の者で、原則として任地において研究及び業務に専念できること
7. (1)履歴書、(2)これまでの研究業績の概略、(3)論文リスト（共著の場合はその役割分担）、(4)研究計画（希望する任地、分野、指導教官があれば明記すること）
8. 平成6年1月10日(月) 必着

9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台 台長 古在由秀

（封筒の表に「国立天文台研究員応募書類」と朱記し、電波天文学分野へ応募の場合のみ「電波天文学分野」と明記し、簡易書留でお送りください）

- (2)国立天文台研究交流委員会委員長 石黒正人

☎ 0267-63-4396

11. 選考は、国立天文台運営協議員会において行います。待遇：国立天文台研究員規則の定めによる（詳細は国立天文台管理部庶務課人事係または9. (2)にお問合せください）

国立天文台位置天文・天体力学研究系教員公募

1. 助手 1名
2. (1)位置天文天体力学研究系 宇宙計量研究部門
(2)三鷹
3. 重力波実験
4. 宇宙計量研究部門で進めているレーザー干渉計を用いた重力波検出装置の開発研究に参加する。現在の研究スタッフ（藤本助教授、大橋助手）や技術スタッフと協力して、重力波天文学を目指して、実験を推進する、意欲的な若手研究者を期待します。
5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1)略歴書、(2)研究歴、(3)研究論文リスト及び主要論文の別刷（共著の場合はその役割分担）、(4)研究計画、(5)本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 1994年1月20日(木) 必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台長 古在由秀

(2)国立天文台・位置天文天体力学研究系

藤本真克 (TEL:0422-34-3622)

10. 封筒の表に「重力波実験分野応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

国立天文台太陽物理学研究系教員

1. 助手 1名
2. (1)太陽物理学研究系
(2)東京都三鷹市
3. 太陽物理学
4. 太陽物理学研究系では、宇宙科学研究所及び全国の太陽研究者と共同で太陽X線観測衛星「ようこう」を運用し、また地上の光学観測装置(三鷹フレア望遠鏡、

乗鞍コロナグラフなど)を駆使して、太陽の総合的研究を行っています。さらに、「ようこう」に続くスペース・プロジェクトとして次期太陽観測衛星の検討を進めています。現在取得中の最新のデータから精力的に科学成果を引き出すとともに、今後の計画推進においても積極的な役割を果たす意欲のある若い研究者を希望します。

5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、又はそれと同等以上の方
7. ①略歴書 ②研究歴 ③論文リスト及び主要論文別刷 ④研究計画 ⑤本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 平成6年1月21日(金)必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 古在 由秀
(2)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台太陽物理学研究系 平山 淳
Tel 0422-34-3720 (FAX 0422-34-3700)
10. 封筒の表に「太陽物理学分野応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議会において行います。

国立天文台理論天文学分野教員公募

1. 助手1名
2. (1)理論天文学研究系理論宇宙物理部門
(2)勤務地 三鷹
3. 4. 担当科目
天体现象の理論的研究に従事する若手の研究者を望みます。研究分野は特定しませんが、幅広い興味を持ち、国立天文台の共同利用にも積極的な役割を果たす人を希望します。
5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上
7. (1)略歴書 (2)研究歴(これまでの研究の概要) (3)研究論文リスト及び主要論文リスト (4)研究計画 (5)本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 1994年2月18日(金)必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 古在由秀
(2)国立天文台理論天文学研究系 観山正見
TEL: 0422-34-3738
E-mail: miyama@yso.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「理論応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。

神戸大学理学部地球惑星科学科教員

1. 助手1名
2. 惑星科学大講座、太陽系物理学教育研究分野:向井正教授と協力して教育・研究を行う。
3. 太陽系と起源と進化、始原天体(彗星、小惑星、惑星間塵等)に係わる理論的研究と共に、天体観測や惑星探査計画にも取り組む。
5. 決定後なるべく早い時期。
6. 上記教育・研究に意欲的に取り組む方。これまでの経験は問わない。
7. (1)履歴書、(2)業績リスト、(3)これまでの研究経過(1000字以内)および今後の教育・研究計画(2000字以内)、(4)応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先(外国人の研究者でも可)、(5)主要論文の別刷りまたはコピー(5編以内)。
8. 1994年1月21日(金)必着
9. (1)〒657 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学・理学部・地球惑星科学科
学科長 松田卓也 宛て
(2)同科 向井正 Tel.078-881-1212 (内線4475),
Fax.078-882-1549
10. 書類は「太陽系助手応募書類」と朱書し、簡易書留でお送り下さい。

稚内北星学園短期大学教員公募

1. 教授、助教授または講師。1名。
2. 経営情報学科
3. 情報教育
4. UNIXワークステーション上での情報教育
5. (1)1994年4月1日
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (a)履歴書
(b)研究業績一覧表
i. 著書(訳書も含む)および発表論文の別刷りまたはコピーを一部添えて下さい。
ii. ソフトウェア開発や情報教育に関して、上記以外の業績があれば、その概要をまとめてください。
(c)情報教育に関する抱負(1500字程度)
8. 1994年1月20日
9. (1)〒097 北海道稚内市若葉台
稚内北星学園短期大学 学長 木村謙二
(2)なお、照会事項等がありましたら、本学経営情報学科 学科長 丸山不二夫までお問い合わせ下さい。

TEL 0162-32-7511/FAX 0162-32-7500

10. 「情報教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送してください

11. 本学の概要:

稚内北星短大は、7年前に最北の地稚内に誕生した、若い大学です。定員100名の経営情報学科と定員80名の英文科の二学科から構成されています。本学は私立大学ですが、開学にあたっては、大学の誘致による地域の活性化を期待して、稚内市が、用地・建物・施設等の全費用を負担してたてられた、公共的性格をもった大学です。

本学は、開学当初から、UNIXとC言語とネットワークを柱とした、日本の短大としては初めてといえるユニークな情報教育のカリキュラムを作成するとともに、140台のSunワークステーションのネットワークを中心とする先進的な情報教育の施設とシステムを作り上げ、全ての情報教育を一人一台のワークステーションで行なっています。

なお、最近では、「世界」(岩波)93年9月号、「UNIXマガジン」「ASCII」93年11月号に、本学の紹介記事が出ています。

情報系のスタッフは、8人(教授2, 助教授3, 講師1, 助手2)で、現在、情報系の4年制大学への移行を計画しています。

日本天文学会会員電子メールアドレスリストについて

天文情報処理研究会では、日本天文学会の委嘱を受けて会員の電子メールアドレスリストの作成作業を行っています。主なサイトの管理者の方等には連絡を差し上げていますが、システム管理者を通じて連絡を受けていらっしゃらない方、あるいは孤立したサイトの会員で電子メールアドレスをお持ちの方は、下記まで電子メールでご連絡下さい。

電子メール宛先: hamabe@mtk.ioa.s.u.tokyo.ac.jp
(天文情報処理研究会 浜部 勝)

'93 Dec. VLBI シンポジウム

三鷹相関局からのサイエンス—NRO ワークショップ
VLBI 観測網の運用と観測計画—VLBI 懇談会シンポジウム

月面電波源の開発—総研大共同研究費「宇宙科学における統計的推論/データ処理法」補助

サーキュラー No. 1 (1993.9.28)

我が国では、今年度水沢局(10m鏡)と鹿児島局(6m

鏡)がそれぞれプリンジテストに成功し、VLBI局としてスタートしました。これによって、永年の夢であった日本列島を縦断するVLBIネットワークが、現実のものとなりました。一方、間近にせまったVSOP衛星の打ち上げに向けて、三鷹相関局の準備も急ピッチで進められています。また、月面に電波源を打ち込んで、相対VLBI観測を行う計画も進行中です。

そこで、関連する三つの研究会をジョイントして、下記のようなシンポジウムを開催することにしましたので、VLBI関連研究者の多数の参加をお願いいたします。

日程 1993年12月14日(火)～17日(金)

第1日目(14日)

第1セッション 三鷹相関局からのサイエンス(その1)

第2セッション 三鷹相関局からのサイエンス(その2)

第2日目(15日)

第3セッション 三鷹相関局からのサイエンス(その3)

第4セッション VLBI観測網の運用と観測計画(その1)

VLBI懇談会総会

第3日目(16日)

第5セッション VLBI観測網の運用と観測計画(その2)

第6セッション VLBI観測網の運用と観測計画(その3)

第4日目(17日)

第7セッション 月面電波源の開発(その1)

第8セッション 月面電波源の開発(その2)

*このセッション構成は暫定的なもので、講演希望者等によって調整します。

会場 国立天文台・三鷹 講義室

世話人 小林秀行(宇宙科学研究所), 河野宣之(国立天文台・水沢) 川口則幸(国立天文台・野辺山)

事務局 国立天文台・野辺山宇宙電波観測所

御子柴 廣 電話: 0267-63-4374(直通)

FAX: 0267-98-2923

「21世紀に向けての天文学長期計画シンポジウム」のご案内

「21世紀に向けての天文学長期計画」の検討も、煮詰まってきました。

日本学術会議天文学研究連絡委員会の長期計画小委員会では、これまで2年間にわたる議論・各分野での検討をまとめた「第一次案」と、本年5月のシンポジウム(第

一回)での議論などをもとに、今回最終答申のたたき台となる「第二次案」の取りまとめを急いでいます。

この「第二次案」について広く天文学関係者の意見をお聞きし、よりすぐれた答申として取りまとめ、またその内容の実現を図っていくための議論の場として、第二回の「天文学長期計画シンポジウム」を以下のように開催します。今回は、装置計画の内容についての議論に重点を置きたいと考えています。残念ながら天文研連には旅費の用意がありませんが、ぜひとも多数の方々の参加と活発な議論とをお願いいたします。

天文学長期計画シンポジウム (第2回)

日時: 1993年12月24日(金)10時30分~18時

場所: 東京大学山上会館 (東京都文京区本郷)

プログラム:

1. 「21世紀をめざす天文学長期計画第二次案」紹介
2. 補足意見・コメント (意見・コメントを募集します)
3. ディスカッション

詳しくはサーキュラー2にてご案内します。

なお「第二次案」は作成中ですが、シンポジウム参加者には事前にお送りし、検討を願いたいと思っています。サーキュラーNo.2および第二次案の送付希望、またシンポジウムでの意見・コメントご希望の方は、12月7日(火)までに氏名・所属・住所を下記へご連絡ください。

連絡先: 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台
海部宣男 または 能丸千秋
(fax: 0422-34-3608 tel: 0422-34-3610)

1993年度(第6回)日本天文学会研究奨励賞候補者の推薦について

会員の皆様からの資金援助によって、1989年度より標記の学術賞を設けております。

この賞は日本天文学会々員で35歳以下の若手研究者を対象としております。候補者推薦に関する手続きは、『日本天文学会研究奨励賞内規』に従って行いますので、会員の皆様からのご推薦をお待ちしております。

推薦書式は特にありませんが、推薦理由、推薦者の氏名・所属、候補者の氏名・所属・生年月日を明記して下さい。

◇推薦締切: 1994年1月末日

◇推薦書宛名: 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内

日本天文学会研究奨励賞選考委員会

◇問い合わせ: 日本天文学会 (0422-31-1359)

日本天文学会早川幸男基金募集要項

日本天文学会 早川幸男基金 (若手海外学術研究援助基金)内規に基づき*、海外学術研究に対する援助者の募集(1993年度3期分)を以下の要領で行います。

1. 援助金総額 年間約100万円
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1994年1月1日~3月31日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わずすでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類 (A4紙に統一すること)
 - (1)応募用カバーシート (本誌の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する)
 - (2)海外渡航の主旨説明
 - (3)論文リストおよび関連研究論文の写し (一編)
 - (4)観測については、観測割当通知および観測提案の写しかそれに準ずるもの
 - (5)国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
 - (6)研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与(口頭発表等)を証明するもの
 - (7)大学院生の場合、研究指導者の意見書
 - (8)航空運賃の見積書
5. 募集締切 1993年12月10日
6. 決定時期 1994年12月下旬
7. 応募書類送付先

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台

日本天文学会 早川基金募集係

*早川基金内規(天文月報第85巻第12号参照)による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費(滞在費を除く)の援助を受けない者。」です。

1993年度2期は、平尾孝憲、菅井 肇の2氏に援助を決定しました。援助者には帰国後報告書の提出をお願いします。

多数の援助希望者がいます。寄付のご協力をお願いします。

寄付振込先: 住友信託銀行

社団法人日本天文学会

普通口座 5206016

井上 允 (会計理事)

早川基金応募カバーシート

(本頁を A 4 に拡大コピー・記入して、応募用紙の最初に添付して下さい)

氏名	(会員番号：)		生年月日	年 月 日
所属		身 分	大学院(修士・博士)課程	年生
援助希望 の内容	(観測・国際共同研究・国際研究集会) その他 []		研 究 生	
渡航期日	年 月 日～ 年 月 日		(常勤・非常勤)職員 [職名：] その他 []	
渡航期間：	渡航場所		渡航費見積金額：	円
研究略歴				
渡航歴および旅費の出所：				
渡航の主旨：				
国際研究集会についての寄与：1. 口頭発表 (Review, Comment), 2. ポスター, 3. その他 []				